「千葉市観光振興ビジョン（案）」に対する意見の概要と市の考え方

	項目	意見の概要	市の考え方
1	その他の意見	新湾岸道路のルート選定は、千葉港に橋が架かるルートでお願いします。 もし、横浜市のベイブリッジが橋の架からないルートかトンネルであったら、今ほどの観光需要はなかったはずです。新湾岸道路の建設にあたって千葉港に橋が架からなければ、甚大な経済的損失を生じさせるのは明らかです。海浜大通りの上に高架道路が通ることを、景観的デメリットとする意見がありますが、千葉港に橋が架かる景観的メリットの方が遥かに大きいです。ベイブリッジや東京のレインボーブリッジ、本四架橋などがそれを証明しています。 また、海浜大通りの上に高架道路が通って、ビーチの観光客数が増える事はあっても減る事はありません。便利になる一方でビーチの美しい景観そのものは変わらないからです。来訪者は「通り」を観に来る訳ではないし、高架道路が海浜大通りをしのぐドライブウェイになります。（海浜大通りから海は見えません） そもそも、海と山と空のみが景観を織りなす田舎の海と違い、いなげの浜・検見川の浜・幕張の浜は都市型ビーチです。対岸の"絶景"がそれを物語っています。高架道路も街中に立つ超高層ビルと同じ都市景観なのです。 ちなみに、有名観光地とされる神奈川の湘南海岸にはビーチに沿って効果の高速道路が続く場所があります。ビーチから高速道路が丸見えですが、むしろそれがいい…と言う人もいます。驚く事に、湯河原町のビーチは高架下に海の家があるくらいです。 それから、新湾岸道路の有識者委員会のメンバーに、市や県の職員（観光、道路、商工、経済担当）の方々にも加わってほしいです。千葉市のことを何も知らず、来た事も無いような人達に地図上で千葉市の将来を勝手に決められたくないし、振り回されたくもありません。	いただいたご意見は関係各課と連携し、今後の参考とさせていただきます。
2	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	都内から千葉市への、JR アクセスの改善を、お願いします。 市民は慣れてしまっていますが、東京以南の住民が千葉市を訪れるのは、不慣れもありますがとても不便です。例えば、千葉駅まで乗り換えなしで来られる都心主要駅は、総武快速線の品川駅-新橋駅-東京駅と時間が掛かり、途中で乗り換えが必須な総武緩行線の新宿駅、秋葉原駅に限られます。 　そこで、総武快速線の山手貨物線乗り入れ延伸を、JR に強く要求してください。 実は、総武快速線はすでに山手貨物線に乗り入れています。総武快速線が東京駅から乗り入れている横須賀線の品川駅から大崎駅の手前で横須賀線方面へ分岐する目黒	取組方針３－２において、市内外の移動利便性を改善するなど周遊性の向上に取り組むこととしており、いただいたご意見は関係各課と連携し、今後の参考とさせていただきます。

		川信号所※までの区間は、山手貨物線なのです。（横須賀線は、この目黒川信号所で山手貨物線から東海道貨物線に分岐して、横須賀方面に向かいます。）つまり、品川駅を出発した総武快速線の電車がその先の目黒川信号所で横須賀方面へ分岐せずに、山手貨物線をそのまま直進すれば、大崎駅-渋谷駅-新宿駅に到着できるのです。都内側から見れば、新宿駅-渋谷駅から総武快速線一本で、千葉市へ来られる様になります。何らかの工事も必要ありません。明日の始発からでも運行可能なのです。 新市民会館や中央公園プロムナード、千葉神社・参道、市美術館・さや堂ホール、亥鼻公園（千葉城、県文化会館など）、千葉公園（オオガハス、ＪＰＦドーム、よはすアリーナなど）、加曾利貝塚などへ、より多くの来街者・来訪者（インバウンドを含む）を呼び込むために、ぜひお願いします。 また、幕張新都心のメッセ、マリンドーム、幕張海浜公園（幕張の浜、ＪＦＡ夢フィールド、見浜園、アルティーリアリーナなど）、イオンモール、三井アウトレットや、稲毛海浜公園（検見川の浜、オーシャンテラス、ヨットハーバー、いなげの浜、サンセットピア、ボタニカミュージアム、バーベキュー・グランピング場、いなプーなど）、卸売市場、アクアリンク、さんばし広場（ケーズハーバー、観光船など）、ポートパーク、ポートタワー、県美術館、蘇我副都心（フクアリ、スポーツ公園、ユナパ、蘇我寒川緑地など）などへの都心からのアクセス改善のため、京葉線のりんかい線-山手貨物線への乗り入れ実現も、引き続きお願いします。 ※信号所とは、多方面へ向かうレールとの分岐点。道路で言うとジャンクション。	
3	P38　戦略１ 楽しめる観光コンテンツと観光地域づくり	・アニメとかマンガとかポケモンともっとコラボしてほしい。最近は初音ミクとのコラボが前より目立ってない。オレガイルで引っ張るのはもう無理かな。あと、ニコ超とか東京ゲームショーとかジャンプフェスタみたいなイベントを増やしてほしい。	取組方針１－１において、アニメと連携したコンテンツやモデルコースの提案・推進のほか、イベントの開催支援、スポーツ、音楽、グルメと観光との連携に取り組むこととしています。
4	P39　戦略２ 行き先として選ばれるためのイメージ戦略	・モノレールは珍しいと聞いたことがある。この前の大雨でも運行していたみたいだし、広告を貼った車両もたくさん走ってるし、PR したほうがいい。	懸垂型モノレールとして営業距離世界最長を誇る千葉都市モノレールは、本市を象徴する特徴的な地域資源の一つであり、取組方針２－１において、戦略的な情報発信に取り組むこととしています。
5	P20 アンケート調査から見る千葉市の観光の現状、 P63 アンケート結果抜粋 外国人旅行者調査	・Ｐ２０に JR の大文字と小文字があるのでどっちかにした方がいい。他のページは見てない。	ご意見を踏まえ、P20及び P63の表記を統一します。

6	P39　戦略２ 行き先として選ばれる ためのイメージ戦略	・有名な観光地がないから、インスタ映えするカフェとかスポットみたいなのがあるといいと思う。インフルエンサーみたいな人とか、観光大使みたいな人を使った方がいいとも思う。オズワルド伊藤が観光大使になりたがっていたから、オファーしたらどうか？フジテレビで取り上げてくれそう。 ・若い人はインスタを見て行くところを探すと思うけど、年配の人はまだまだテレビとか本とかを見る人が多そうだから、両方必要そう。 ・餃子とか名物がないから作った方がいい、他の県の人からしたら落花生のイメージしかないと思う。 ・ロッテとかジェフとかが強くならないと盛り上がらないから強い選手をとるべき。それが観光に繋がる気がする。 ・工場夜景は見たことがないから見てみたい。船が毎日出ているのか知らない。	本市は多様な観光資源を有している一方、認知・訪問されているスポットが少ないことが課題と認識しており、取組方針２－１において、ターゲットが求める魅力のある情報をターゲットが活用する媒体で発信に取り組むこととしています。 いただいたご意見は、今後の観光振興の取組みを検討する上での参考とさせていただきます。
7	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	千葉市には、海や公園、スポーツ、文化、食など、多様な観光資源があります。これらの魅力を、年齢や障がい、国籍などにかかわらず、誰もが安心して楽しむことのできるまちにしていくことは、観光客だけでなく、市民にとっても暮らしやすく、外出したくなるまちづくりにつながると考えます。	取組方針３－１において、バリアフリーや多言語対応などユニバーサルツーリズムを推進することとしています。
8	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	1）誰もが安心して休める「ユニバーサル休憩ステーション」 「ユニバーサル休憩ステーション」は、市民だけでなく、千葉市を訪れる観光客など、外出中の誰もが安心して立ち寄り、休むことのできる場所を想定しています。高齢者や障がいのある方にとって、「途中で休める場所があるか」「トイレや必要なケアができるか」「電動車椅子や医療・福祉機器の電源を確保できるか」といったことは、外出先を決める重要な条件になります。そこで、ホテル、商業施設、ドラッグストア、観光・文化施設、公共施設など、既存の地域資源を活用した「ユニバーサル休憩ステーション」を提案します。椅子や休憩場所、車椅子対応トイレ、電源、大人のおむつ交換や着替えにも利用できる大型ベッド、ケアスペースなど、各施設が提供できる設備やサービスを登録し、市のホームページや観光マップ等で分かりやすく発信します。 新たな施設を建設するのではなく、既存施設の協力による小規模なモデル事業から始めることもできます。「途中で休める」という安心は、市民の外出を後押しするとともに、観光客が「もう１か所行ってみよう」と思える市内回遊にもつながると考えます。	いただいたご意見は関係各課と連携し、今後の参考とさせていただきます。

9	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	2）地域の日常と観光をつなぐ「ユニバーサル・ウェルネスステーション」 「ユニバーサル・ウェルネスステーション」は、地域住民が日常的に利用しながら、千葉市を訪れる人も気軽に立ち寄り、食事や買い物、交流などを楽しみながら過ごすことのできる、地域に開かれた交流・滞在拠点を想定しています。新たな施設を一律に整備するのではなく、地域の特色や既存施設を活かし、例えば、公共交通で訪れやすく日常的な外出につながる「駅前・まちなか型」、緑や自然の中でゆっくり過ごせる「公園・自然型」、海や食、体験などを楽しめる「海辺・観光型」など、地域特性に応じた展開を提案します。大切なのは、食事や買い物などの目的がある人だけでなく、「少し出かけてみよう」「ここで昼ご飯を食べよう」「誰かと話したい」と思ったときに、誰もが気軽に訪れ、安心して過ごせることです。そのため、休憩や飲食、交流、地域・観光情報などの機能に加え、公共交通との接続や、駅・バス停からのバリアフリーな移動経路など、アクセスのしやすさも重要だと考えます。地域の人にとって身近な外出先となり、来訪者にとっては地域の人や暮らし、自然、食などに触れながら千葉で過ごせる場所となることで、「その地域で過ごすこと」自体を楽しむ観光へ広げることができます。さらに、可能な場所には電源や飲料水、非常食等の備蓄などの防災機能を加え、平時の交流・滞在拠点を災害時の地域の支援にも活かすことを提案します。市民の日常利用と観光利用を一つの場所でつなぎ、地域ごとの特色を活かした「訪れる人と暮らす人がともに楽しめる場所」を増やすことが、千葉市ならではのユニバーサルツーリズムにつながると考えます。	いただいたご意見は関係各課と連携し、今後の参考とさせていただきます。
10	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	3）千葉ならではの「体験・挑戦型観光」へ 千葉市には、海、スポーツ、文化、食など、さまざまな観光資源があります。これらに「誰もが参加できる」という視点を加えることで、千葉市ならではのユニバーサルツーリズムをつくることができると考えます。例えば、海辺では、車椅子利用者も海に近づける環境を活用し、ヨットなどのマリンスポーツやバーベキュー等を組み合わせた体験型観光が考えられます。また、千葉県の豊富なゴルフ資源を活かした障がい者ゴルフや、足こぎ車椅子「COGY」などを活用したスポーツイベントへの参加など、障がいがあっても「見る」だけではなく、「参加する」「体験する」「挑戦する」機会を増やしてほしいと考えます。「できない」と最初から諦めるのではなく、「どうすれば安全にできるか」を当事者や関係者と一緒に考える仕組みをつくることで、千葉市を「やってみたいを応援するまち」として発信できるのではないでしょうか。	取組方針３－１において、バリアフリーや多言語対応などユニバーサルツーリズムを推進することとしており、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

11	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	4）目的地だけでなく「移動」もユニバーサルに 観光施設がバリアフリーであっても、そこまで行くことができなければ観光を楽しむことはできません。鉄道、モノレール、バス、タクシーなどの公共交通と観光施設をつなぎ、駅のエレベーターや段差、車椅子で利用できる経路、休憩場所、バリアフリートイレなどの情報を分かりやすく提供することを提案します。特に、ウェルネスステーションなどの拠点を整備する際には、公共交通との接続や、駅・バス停から目的地までのバリアフリーな移動経路も一体的に考える必要があります。「出発地点から目的地を楽しみ、安心して戻るまで」を一つの観光体験として捉え、移動の不安を減らすことが、市民の外出促進と観光客の市内回遊の双方につながると考えます。	取組方針３－１において、バリアフリーや多言語対応などユニバーサルツーリズムを推進することとしており、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
12	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	5)誰もが安心して泊まれる千葉へ 宿泊施設のユニバーサル化も重要です。段差の解消や手すりの設置だけでなく、シャワーチェア、大型ベッド、福祉用具等の貸出しなど、さまざまな利用者のニーズに対応できる環境整備を進めるとともに、予約前に必要な情報を確認できるよう、バリアフリー設備や対応可能なサービスを分かりやすく発信することを提案します。また、旅行介助士や地域の介護・福祉サービス等との連携により、必要に応じて外出や宿泊時の支援を受けられる仕組みがあれば、介助を必要とする方の旅行の選択肢が広がります。設備だけでなく、宿泊施設や観光施設のスタッフがユニバーサルツーリズムについて学ぶ研修の機会をつくり、「相談しても大丈夫」と思える受入環境を整えることも重要です。	取組方針３－１において、バリアフリーや多言語対応などユニバーサルツーリズムを推進することとしており、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
13	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	6）「ここに相談すれば出かけられる」相談・コーディネート機能 高齢者や障がいのある方が旅行や外出を計画するとき、宿泊、交通、トイレ、休憩、介助、体験などの情報を、それぞれ自分で調べなければならないことがあります。そこで、既存の観光案内機能や観光協会、民間事業者、市民活動団体、福祉関係者等が連携し、ユニバーサルツーリズムに関する相談やコーディネートができる仕組みをつくることを提案します。「ここに相談すれば、自分に合った出かけ方を一緒に考えてもらえる」という窓口があることは、外出を諦めていた人の最初の一歩につながります。	いただいたご意見は関係各課と連携し、今後の参考とさせていただきます。

14	P42　戦略５ 観光・MICE を 支える基盤の強化	7）災害時にも誰も取り残さない観光都市へ 観光客は、災害発生時に土地勘がなく、避難場所や交通機関の情報を得にくい場合があります。高齢者や障がいのある方、外国人、子ども連れなどには、それぞれ異なる支援が必要になることもあります。多言語による情報提供だけでなく、文字・音声など複数の方法による情報発信、車椅子でも利用できる避難経路、電源の確保など、さまざまな人を想定した観光防災を進めることを提案します。また、ユニバーサル休憩ステーションやウェルネスステーションなど、普段から地域の人や来訪者が利用している場所を、災害時の情報提供や一時的な支援にも活かせる仕組みがあれば、平時の「安心して出かけられるまち」と災害時の「安心して避難できるまち」をつなげることができます。	取組方針５－５において、災害などに対する危機管理に取り組むこととしており、いただいたご意見は関係各課と連携し、今後の参考とさせていただきます。
15	P45　推進体制	8）行政だけでつくらない、みんなで支える仕組み ユニバーサルツーリズムは、行政だけで実現するものではありません。観光協会、宿泊施設、交通事業者、商業施設、飲食店、体験事業者、福祉関係者、市民活動団体、そして実際にまちを利用する当事者など、さまざまな人が参加することで、持続可能な取り組みになると考えます。協力できる施設やサービスを登録する仕組みをつくり、まずは地域を限定した小規模なモデル事業から始め、利用者の声を聞きながら改善し、市内各地へ広げていく方法も考えられます。私たちのような市民活動団体も、当事者と一緒にまちを歩き、実際に利用・体験することで課題や良い点を見つけ、行政や事業者と共有する役割を担いたいと考えています。	いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
16	P44　成果指標	【実現に向けた成果の確認】 観光振興の成果については、観光客数や宿泊者数、観光消費額だけでなく、「誰もが安心して観光できるまちになったか」という視点からも確認してほしいと考えます。例えば、ユニバーサル休憩ステーション等の協力施設数、バリアフリー情報を公開している施設数、ユニバーサルツーリズム研修を受けた事業者数、相談・コーディネート件数、利用者の満足度などを継続的に確認することで、取り組みの成果や課題が見えるようになります。また、今後新たな観光財源を活用する際には、このような誰もが安心して訪れ、滞在し、楽しむための受入環境整備にも活用していただきたいと考えます。	いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

17	P40　戦略３ 快適に観光を 満喫できる環境整備	【おわりに】 私たちが考えるユニバーサルツーリズムは、「障がいのある人のためだけの特別な観光」ではありません。高齢者、障がいのある方、子ども連れ、外国人観光客など、さまざまな人が同じ地域で、それぞれの方法で観光や外出を楽しめる環境をつくることです。 途中で安心して休めれば、「もう 1 か所行ってみよう」と思える。移動の不安がなくなれば、今まで行けなかった場所へ行ける。安心して泊まることができれば、日帰りから宿泊へと選択肢が広がる。相談できる人がいれば、「やってみたい」を諦めずに済む。 そして、地域の中に「行ってみたい」「そこで過ごしてみたい」と思える場所があれば、市民の日常の外出と観光客の滞在を自然につなげることができます。「観光客にやさしいまちは、市民にもやさしいまちになる」。 新しい施設を次々につくるのではなく、千葉市にすでにある人、場所、交通、自然、スポーツ、文化などの資源をつなぎ、誰もが「出かけてみたい」「やってみたい」と思える千葉市をつくっていただきたいと考えます。千葉市が、誰もが「やってみたい」を実現できるユニバーサルツーリズムのモデル都市となることを期待します。	取組方針３－１において、バリアフリーや多言語対応などユニバーサルツーリズムを推進することとしており、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。
18	P42　戦略５ 観光・MICE を 支える基盤の強化	1.外国人の観光客を増やすことはいらない 33 ページの課題②で外国人の観光客や宿泊者数が低い水準と書かれていますが、18 ページのグラフを見ると日本人の宿泊者は増えています。 京都等ではインバウンド問題が以前から取り上げられており、千葉市民としては外国人のマナーにより環境悪化となるようであれば、どちらかと言うと日本人の観光に力を入れてほしいと思っています。	市民生活や環境などに配慮しつつ、持続可能な観光地域づくりを推進することとしており、いただいたご意見は、今後の観光振興の取組みを検討する上での参考とさせていただきます。
19	P38　戦略１ 楽しめる観光コンテンツと観光地域づくり P39　戦略２ 行き先として選ばれるためのイメージ戦略	2.音楽フェスやスポーツにもっと力を入れてほしい 32 ページでは、市民が市内でのイベント参加やスポーツ観戦などは観光となると定義づけられています。 私は千葉市民ですが、音楽フェスやスポーツ観戦が趣味です。15～16 ページでは、千葉市の現状として記載がありますが、ジャパンジャム、サマーソニック、ロッキン、カウントダウンジャパンと、これだけの大型フェスが集中している都市は他にないと思います。スポーツでも、野球、サッカー、バスケットボールのプロスポーツの３競技がある都市もあまりないと思います。音楽フェスやプロスポーツが千葉市で開催されている、千葉市にあるということをもっと全国に PR していった方がよいと思います。 （8 ページに続く）	音楽フェスを含めた多くのイベント開催や、本市をホームタウンとする多様なプロスポーツチームがあることは、本市観光振興の大きな強みと考えています。 取組方針１－１において、スポーツや音楽と観光との連携推進、取組方針２－１において、戦略的な情報発信に取り組むこととしており、いただいたご意見は、MICE開催都市としてのブランド力が高まるよう、今後の観光振興の取組みを検討する上での参考とさせていただきます。

		38 ページの取組方針では、スポーツ、音楽、グルメと観光との連携推進とありますが、数年前に実施されたクーポンは、私もまわりの友人も何度も利用しました。音楽イベントやスポーツ観戦と連携して、地元の飲食店で使えるクーポンは利用されるが多いと思いますので、また同じようなキャンペーンを行ってください。	（7ページに記載）
20	P38　戦略１ 楽しめる観光コンテンツと観光地域づくり	3.千葉県や他の市と一緒にがんばる 私が旅行に行く時、行き先は○○県と選びますが、何市に観光スポットがあるかを意識して旅行に行ったことはありません。千葉市だけで観光に力を入れるのではなく、千葉県や他の市と一緒になって旅行客が来葉するように仕掛けたほうが良いと思います。	取組方針１－1において、近隣市の魅力を活かしたモデルコースの提案や、千葉市を発着地とするツアーの造成支援に取り組むこととしており、いただいたご意見は、今後の観光振興の取組みを検討する上での参考とさせていただきます。